

四條驛市

もちもちのご飯がうまい！ 安全・美味を求めて農業にかける夢

三重県伊賀地方、四方を山に囲まれた盆地には豊かな自然が広がる。この地にほれ込み農業法人(農地所有適格化法人)を立ち上げた若者がいる。

むらかみファームの代表村上智康さん(32)は、四條驛市から伊賀へと農業の拠点を移行。若きリーダーとして国内外に活躍の場を広げ農業を魅力あるものにするために新風を起している。農業ビジネスの新しいカタチとして、1丁を駆使した販売戦略などで、2015年に、1万2千㎡からスタートした耕作地面積は、今年には5万㎡(東京ドームの約半分)に拡大し、6次産業化への製品開発も着々と進んでいる。



なぜ農業なのですか

実家(四條驛市)は、先々代から稲作をしていて、幼少期よりザリガニやカエルを捕まったり、田んぼで遊んでいました。小学生の時は、祖父の農業の手伝いをするのが当たり前。ただ、大人になるにつれて、田園風景が徐々になくなってきたので、今年まで耕作して



▲自然の恵みと品質にこだわりつくりました ▲若手従業員が農業を支える

これまでの経緯は

自分の周りには、同年代の経営者、または自分より年下の経営者が多く、このままでは彼らと同じ土俵に立てないと感じたのと、経営面の相談が得意な場もありました。



▲2016年夏、農作業の合間に...

起業を決めた動機は

19歳で勤労学生として正看護師免許を取得して6年間病院に勤めていたのち、老人ホーム運営会社の介護事業部門に入職しました。この会社の考え方や、協力してくれた人との出会いなど、多くの人に恵まれ、看護師としての仕事以外の知識なども増え、考え方も刺激を受けました。やがて管理職の立場になり、他の事に集中するのは会社に迷惑をかけてしまうかと判断し、次のステージに進むと決めました。

今後の展望は

平均年齢68歳の農業業界を変えたい。輸出に頼っている今の現状では、自給率は上がらない。このままでは、誰も農業をしないため、農協を通さずに競争力をつけた農産物としての価値を上げたいなど、課題は多くあります。

いた田も開発がかることになり、稲作を維持したい家族全員の願いをかなえたいと思ったのです。長男としてファミリーの絆をつなぐ想いもあり、たまたま競売にでていた伊賀の土地を購入し、耕作することを決めました。



伊賀米は、気候・土壌・水などが恵まれた条件で育つことから、味・香り・粘りがあります。口に広がる甘味が特徴で、冷めても美味しくいただけます。



▲全国47都道府県の主婦による、ご当地自慢ランキング「よしもと47シュフラン」授賞式にて、吉本タレントから金賞の表彰を受ける村上社長(右)

●伊賀米コシヒカリの通販

伊賀米コシヒカリ「心」
玄米 10kg 5400円(税込)
※送料500円

便利でお得な定期便コース
定期購入(年間契約)なら
■白米(10kg)の場合[送料無料]
通常:5,900円▶月額:5,000円

MURAKAMI FARM
農業法人
むらかみファーム
三重県伊賀市猪田1139

●伊賀米コシヒカリの通販は「伊賀米 むらかみファーム」で検索
<http://mrkm-farm.jp/>